

# 園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

－保育記録の読み取りに表れる保育観の違いをめぐって－

ポーター 倫子

## 1. はじめに

保育実践を向上させていく手立ての一つに、園内研修がある。筆者は1991年度4月より3年半（1994年10月現在）の間、石川県内の私立保育園の園内研修指導に月一度の割合で携わってきた。その中で主な取り組みは、保育記録を提出してもらい、それを材料に職員でカンファレンスを行うといった記録検討であった。カンファレンスは平岩氏による「マイクロ分析における集団討議」を参考資料として用い、子どもを見る目を育て、保育の質を向上させていきたいとする職員の熱心な願いの中で取り組みを重ねていった。平岩氏による保育事例分析のすすめ方は次のようにまとめられている<sup>①</sup>。

- ①全体を通読する（原資料を読む）
- ②簡単な疑問点について出し合う
- ③文章の一つひとつについて逐次検討する
- ④書かれている保育の事実について確認する
- ⑤保育の現実について参加者との討論に入る（子ども観、保育観について）
- ⑥かくされた事実、背景について補足しあう
- ⑦実践記録者の書けなかった部分について確認しあう
- ⑧参加者による複数の目による保育観をもとに、具体的に不足していた部分について文章化していく
- ⑨記録者は、会の終了後、全体の文章について討論内容をふまえて整理し、文章表現を行う
- ⑩再度、その文章を参加者に提供する

平岩氏は、集団討議の効果を挙げるための条件として、発言しやすい雰囲気づくり、聞く姿勢、相手を受容する態度を挙げている<sup>②</sup>。討議の効果は職場の人間関係に左右されやすく、馴れ合いのおしゃべりに終わってしまうこともあれば、逆に相手に遠慮し率直に意見が言い合えないこともある。新米の保育者は、経験年数の多い保育者に対して遠慮がちになりやすいし、一部の人たちの討論に終わってしまう危険性もある。私が参加した園内研修でも、経験年数が少ない保育者程、発言件数も少ない傾向であったため、平等に発言してもらうためには、順番に一人ひとりの意見を聞いていくというような方法を取ることも多かった。

金澤氏は、カンファレンスの問題点として「職場の人間関係の難しさ、保育というそこにその人まるごとが現れてしまう営みの性質等から、子どもへの関わりを互いに問いにくく、疑問

## ポーター 倫子

や意義に蓋をしたり、あくまでも保育というレベルで保育者の責任と自覚において問われていくべきことが、子どもの側の問題として語られてしまう—そして、そのこと（片手落ち）にすら気付かない—等、本当の意味で保育者自身の成長の糧となり、実践に返るような話し合いになっていかない現実があるように思われる」ことを指摘する<sup>③</sup>。そして人間関係に左右されることなくカンファレンスを活性化させる方法として、具体的な共通課題を持つことを提案している。確かに、何を討議するかという共通課題が定まっていれば、個人レベルでの責任の問い合いも少なく、一人ひとりが自分の問題として受け止めやすいのではないだろうか。

カンファレンスが、他者の視点に気付くことによって自己の視点を振り返り、自己の保育観や子ども観を見直す機会となるのは、周知のことである。しかし、その中でどのような語り合いがなされ、それが一人ひとりのどのような変容につながっていったかを整理していくことが必要であるように思われる。単なる意見交換に終わらず、保育者の成長につながっていくための質の高いカンファレンスのあり方を検討していきたい。

平岩氏は、保育記録の集団討議の過程を丁寧に辿りながら、何が話し合いの視点となり、どのように幼児の視点に立って分析を行ったかを記している<sup>④</sup>。また佐藤氏も、話し合いによって対象児の気持ちに沿った見方ができるようになった過程を記している<sup>⑤</sup>。加藤氏らの研究でも、担任と第三者（記録者）の討議の中で、問題の焦点が絞られ、解決に至ったプロセスが検討されている<sup>⑥</sup>。しかしこれらの研究は、一人ひとりの保育者の中でどのような変容が見られたかまでは、分析に及んでいない。そこで、それぞれの保育者が園内研修によってどのように見方の修正を行い、保育観が変化していったかを分析していくことを研究課題としたい。今回は、まず筆者が参加している園内研修のメンバーたちがそれぞれどのような保育観を持っているかを、保育記録の読み取りを通して分析することを目的とする。

## II. 保育記録の意義

保育記録とは、小川氏によれば「保育者が保育中に起こった出来事を、当事者ないし第三者（同僚、研究者）が記録したもの」である<sup>⑦</sup>。保育記録の代表的なものとして、日誌、連絡帳、実践記録が挙げられる。その中でも実践記録は、子どもの動きと保育者の働き掛けが具体的に書かれたものであり、自分の実践を振り返るために大変有効な手段である。

河邊氏は、記録は「幼児」と「自分」を知るという二重構造を持つ、と述べている<sup>⑧</sup>。すなわち記録によって、実践の評価を幼児側と自分側（保育者側）から行うのである。保育者の評価について考えると、無意識に行っていた保育者の言動を、後から自覚化する目的のために記録を取るのである。つまり、自分はどのように関わり、その関わりは幼児のどのような行動をどう読み取った根拠によるものだったのかを振り返ることである。またそのように関わった結果、幼児はどのように反応したのかというフィードバックを通して保育を見直すことができるのである。この一連の過程の中で、自分は幼児にどのような「願い」を持って接していたか、すなわち保育観も確認できる。

園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

記録は、保育中のある出来事を抽出することである。特定の場面を「焦点化」するには、それなりの理由があるはずである。保育者の「課題性」が記録に表れているとも言うこともできるであろうし、保育者の「価値観」や「保育観」が内包されているとも言える。また、記録というのは事実そのものではなく、自分というフィルターを通して表現された媒介的なものであることを考えると<sup>9)</sup>、記録には記録者の価値観（保育観）の枠組が反映しているのである。このことは記録を読み取る側にも当てはまることであって、どう読み取るかは、読み取り手の価値観（保育観）が反映するのである。保育記録の作成・分析方法については、様々な事例が報告されている。それをまとめて表1のように表した。

表1 保育記録の作成・分析方法

研究者（研究グループ）	保育記録（事例研究）の作成・分析のための指標
小川 博久 <sup>(10)</sup>	①観察できる幼児の外面的行動を示す文 ②保育者がとった外面的行動を示す文 ③保育者の心に映った幼児の心の状態 ④保育者の考えたこと感じたこと
南 博文 <sup>(11)</sup>	①同時的参与（観察者は事象の進行に同時的に参与しながら観察・記録する） ②文脈の記録 ③記述と解釈の同時進行 ④部分的文脈と全体的文脈の多層構造の解説と記述
グループ「独立」 <sup>(12)</sup>	①事実をとらえる ②解釈する ③考察する ④評価する
平岩 定法 <sup>(13)</sup>	①子どもの状態 ②子どもの心の動き ③保育者の指導と心の動き ④保育者と子どもの関わり ⑤保育環境、教材 ⑥保育者の指導観、保育観 等

その他、河邊氏は幼児の具体的行動の記述を根拠とした「遊び課題」や保育者の幼児に対する「願い」が明確にされていることを、実践に生かされる記録の視点と考えている<sup>(14)</sup>。また今井氏は『保育に生かす記録の書き方』の中で、テーマ（問題意識）を明確にすること、抽象的・概念的ことばを避け、具体的に書くことを指摘している<sup>(15)</sup>。同様に、関口氏も記録を「焦点化」した理由や経緯を明らかにすること、保育の流れや過程も記すこと、具体的事実と解釈をはっきり区別することの重要性を述べている<sup>(16)</sup>。

これらを整理すると、1) 幼児の具体的行動、2) 幼児の気持ちの推察、3) 保育者の関わりや指導、4) 保育者の考え（願い）が記されており、5) 保育者の問題意識（テーマ）が明確になっていることや、6) 背景や全体の流れが分かるようになっていることが実践に生かさ

れる記録の条件と言えよう。

### III. 方 法

今回は、まず筆者が参加している園内研修のメンバーたちがそれぞれどのような保育観を持っているかを、保育記録の読み取りを通して分析することを目的とする。今までの園内研修では、各保育者が順に自分の実践記録を持ち寄ってカンファレンスを行ってきたが、ここでは利害関係のない他園の実践者による記録（実践者のプロフィールについては一切知らされていない）を用いて、その読み取りを分析することにしたい。実際の保育実践を見ることなく、また記録の当事者が参加することなく、記録を読み取ろうとするのは、読み取る側の読解力、感性、想像性、価値観の影響を受けやすいことである。しかし、そうであるからこそ、読み取り側の保育観が現れやすいのではないかと推察する。次に研究の方法を具体的に記す。

#### ア) 研究対象となった保育記録について

「読み取り」の対象となった保育記録は、筆者が関わった保母研修会の折に、複数の園から提出されたものの中から抽出したものである。実践者の保育観が比較的良好に表れているもの、現場での共通課題になりやすいテーマを含むもの（友達がいない、途中入所等）を基準とし、3篇選んだ。「ともだち おらんげ」「途中入所のT君について」「S君の仲間関係を見つめて」である（資料1、2、3）。

#### イ) 保育記録の読み取りについて

園内研修参加者に保育記録3篇を配り、次の方法で読み取りを行ってもらった。

- ① 記録「ともだち おらんげ」「途中入所のT君について」については、自由にコメントを記録中に書き込む。
- ② 記録「S君の仲間関係を見つめて」については、記録の対象児であるS君の気持ちを推察し、書き込む。

#### ウ) 読み取りの分析について

① 実践に生かされる記録の条件（II. 保育記録の意義）を参考に下記のカテゴリを作成した。それに基づいて、各保育者によって書かれたコメントを、分類整理した。

##### a 幼児について

a<sub>1</sub> 幼児の行動に対する解釈

a<sub>2</sub> 幼児の内面の推察

##### b 保育者について

b<sub>1</sub> 保育者の援助に対する考察

b<sub>2</sub> 保育者の援助に対する提案

b<sub>3</sub> 保育者の考え（幼児への願い）に対する考察

園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

表2 保育記録「ともだち おらんげ」の読み取り

保育者	保育記録「ともだち おらんげ」へのコメント
A	②「一つだんごが作れたのなら、もう1コ作ろうよ」又は「今度はチョコレート作ってみる？」等もっと誘いかける。(b <sub>2</sub> ) 「○○ちゃん上手に作れるよ。Dと一緒に作っておいで」と誘い、友達との関わりを持つ。(b <sub>2</sub> ) ⑩クラス、皆の前で「Dがこんな紙芝居を作ったよ」と紹介しても良いと思う。(b <sub>2</sub> )
B	⑥前日との関連性、もう少しお菓子作りに力を入れて、続けてみても良いのでは？(b <sub>1</sub> ) ⑩言葉かけは行われているのかな？(b <sub>1</sub> ) ⑮何を基準に幼いとしているのか？遊び？友達との関わり？(b <sub>2</sub> )
C	①友達からDに対しての誘いかけがないか、みんなの前でDのことを認めるなど、他の子がDに関心を持てるようにする(b <sub>2</sub> ) ②本当にしたいと思える遊びを見つけられない(a <sub>2</sub> ) ⑦一人ではなく、他の子も誘ってみてはどうか(b <sub>2</sub> ) ☆Dが友達に対して関心を示していることは分かるので、きっかけになるようなことをDの興味ある遊びから引き出してあげようとするのは良かったのではないかな(b <sub>1</sub> )
D	③保育母とのかかわりを求めているのではないだろうか(a <sub>2</sub> ) ⑧これがきっかけで、活動が始められたのでは？(b <sub>1</sub> ) ⑯のぞいたり、遊びに参加しようとする姿が見られるので、関わりは増えていくように思う。(a <sub>1</sub> )
E	④紙芝居は一人での作業だったが、家づくりは友達との共同作業だったので関心もあったのでは？(a <sub>1</sub> ) ⑥一緒に自動販売機を触ったりして遊び、足りないものがあるかというところから話し合ってみる(b <sub>2</sub> ) ⑬興味を持った自動販売機の方から、うまく誘っていけば、関心も違ったかもしれない(b <sub>2</sub> )
F	c) 自分の保育の中にもよく起こりやすいことである(c) d) 「ともだちなんかいらん」というのは寂しさを感じているが、意地をはっている？素直に気持ちが出てくるようになったのか？(a <sub>1</sub> ) 自分の思いが押しえつけられるから、持続しないのだから(a <sub>1</sub> ) ②すぐ飽きるのは、その子の興味に合った環境ではないため、遊びが見つけれないのだから。(a <sub>1</sub> ) ③友達との関わりをねらいとするならば、紙芝居づくりは難しいのでは？(b <sub>1</sub> ) ⑤自分から興味を持ち、しようとしたのは、いろいろな面でふくらんでいくのだと感じた(a <sub>1</sub> ) ⑭自分が心から楽しいと感じると、友達に声を掛けたり、関わりを持とうとする気持ちが芽生えてきたのだろうか(a <sub>1</sub> )
G	①自分の知らないものがあるのだが、友達には「何なの？」と尋ねることができず、自分で探ろうとしている様子あり(a <sub>1</sub> ) ②友達との共有がなく、つまらない(a <sub>2</sub> ) ③夢中になるのは、Dの性格の表れ(a <sub>1</sub> ) ④Dは家づくりよりも、友達に関心を持っている(a <sub>1</sub> ) ⑤自分自身の表現。すごい成長なのでは(a <sub>1</sub> ) ⑬友達と関わりたい反面、うまく自分を表現できないもどかしさがある。(a <sub>2</sub> ) ⑮5歳児として見ず、D自身の姿としてみれば、成長を認めてやりたい(b <sub>2</sub> ) ☆Dの得意な分野を探り、友達の中でそれをアピールできるように援助する(b <sub>2</sub> )
H	b) 祖父の暴力的行為に対してDが平静なのは、気になる点である(a <sub>1</sub> ) ⑥友達との関わりが必要と感じているのならば、友達とつながる遊びに誘いかけ、きっかけを保育母がつくるようにしたらいのでは(b <sub>2</sub> ) ⑨途中でできた紙芝居を他の友達に紹介するなど、他児にもDの存在を意識してアプローチするのも方法ではないか(b <sub>2</sub> ) ⑬好きな活動に誘うことと、その子に必要なと思われる活動に誘うことはどちらが必要なのか？と思う(b <sub>1</sub> )
I	①友達を求めているのが分かる(a <sub>1</sub> ) ②誘われて遊びに入ったが、自分からしたいあそびではなかったのだから(a <sub>1</sub> ) ⑦5歳児に必要なだったか？見つかるまで待てなかったか(b <sub>1</sub> ) ⑮こういう思いでDを見ているため、保育者の手がかかり過ぎるのでは？友達同士の育ち合いが必要(b <sub>2</sub> ) ☆保育者とDではなく、Dと友達との関わりが持てるように、保育者が友達に関わることはできないか？(b <sub>2</sub> )

注1. 各コメントの前の記号は、保育記録内の記号を示す。

(☆は、特定の文章を対象としないコメント)

2. 各コメントの後の括弧内の記号は、読み取りの分類記号である。

ポーター 倫子

c 自分（読み取り側）の保育の省察

② S君の気持ちの推察を各保育者ごとに整理し、比較分析した。

IV. 結果と考察

1. 記録「ともだち おらんげ」の読み取り

各保育者の読み取りを整理したものが、表2である。

この記録の中で、最も多くコメントが書かれたのは②で5件であった。それらを種類別に整理し、読み取りを次のようにまとめてみる。

【保育者の記録】	【読み取りの種類】（記号は保育者番号を表す）	
②保育に誘われ、だんごづくりに入ってきたが、一本作るとすぐにその場から離れていく。好きな絵本を取り出し、見始めるが、すぐ飽きてしまい、寝そべっている。	□ C 本当にしたいと思える遊びを見つけれない。	ア) Dの思いを汲み取ろうとするもの 共感的理解
	□ G 友達との共有がなく、つまらない。	
	□ I 誘われて入ったが自分からしたい遊びではなかったのだろう。	イ) Dの行為の根拠を分析しようとするもの
	□ F すぐ飽きるのは、その子の興味に合った環境ではないから？	
	□ A 「一つだんごが作れたのなら、もう1コ作ろうよ」又は「今度はチョコレート作ってみる？」等もっと誘いかける。 「〇〇ちゃん上手に作れるよ。Dも一緒に作っておいで」と誘い、友達との関わりを持つ。	ウ) 保育者の援助に対する提案

②の読み取りを整理をしていくと、ア) Dの思いを汲み取ろうとするもの—共感的理解、イ) Dの行為の根拠を分析しようとするもの、ウ) 保育者の援助に対する提案と大きく3つに分けることができた。ア) やイ) は、幼児理解の読み取りと言える。幼児理解は、幼児の気持ちに沿おうとすることと、なぜそういう行為を行ったのか理由を考察することで深まる。この幼児理解に立って、適切な保育者の援助が考察、提案されるのである。保育者Aは、Dの興味を引くような誘いかけの方法をいろいろと提案している。これはA自身の普段の子どもたちとの関わりの中で見られる、援助の姿と言えるのかもしれない。

園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

次に多くコメントが書かれたのは、⑥⑬⑮であったが、これらの中での保育者らの保育観がはっきりと表れている⑮を抽出してみる。

【保育者の記録】	【読み取りの種類】（記号は保育者番号を表す）	【読み手の保育観】
⑮しかし5歳児としてはまだ幼いと思われる。	B 何を基準に幼いとしているのか？ 遊び？友達との関わり？	年齢を尺度にして子どもを見るのはよくない。
	G 5歳児として見ず、D自身の姿としてみれば、成長を認めてやりたい。	Dの姿をありのまま受容することが大切。
	I こういう思いでDを見ているため保育者の手がかかり過ぎるのでは？友達同士の育ちあいが必要。	Dに対してもっと5歳児らしく接する方がいい。

⑮は、保育者の保育観がはっきりと表れた記述であったため、それに対するコメントにも読み手の保育観が当然含まれる。保育者BとGは、「〇歳児はこうあるべき」といった保育者の発達観を否定的に捉え、そうでなくありのままの幼児の姿を受容することの大切さを保育観として持っているようである。逆にIは、他のコメントの多くにも見られるように、「〇歳児はこうである」といった各年齢毎の発達の様相を捉えているようであり、年齢に応じた関わり方をした方が、問題を解決できるのではないかと読み取っているのである。

最後に、この記録によって保育記録者の課題を解決することができたか、また他者の読み取りによってどのように解決できたかについて考察する。記録者の課題は、タイトルからも伺われるように、Dの友達との関わりを育てるためにはどうしたら良いかということである。記録者は、⑭に表れているように、Dが友達と関わりを求めようになってきたことを認め、⑯のように、今後はDの興味ある活動をきっかけにし、友達との関わりが持てるように援助していきたいと考察している。記録を読み取った人は、どのように考えたであろうか。整理してみると次のようになる。

ア) Dは友達に対して関心を示している。

イ) 友達と共同で遊ぶような遊びにさそいかけ、友達と関わるきっかけづくりをすることが大切。（紙芝居づくりよりも、家づくりに誘いかけた方がいい）

ウ) Dの興味ある遊びを用意することが大切。

エ) Dの存在を友達にアピールすることが大切。

ア) やウ) は、保育記録者の考察と同じであったが、イ) やエ) は読み取り手によって提案された友達づくりのための援助の方法であると言えよう。このように他者の見方を突き合わせ

ポーター 倫子

表3-a 保育記録「途中入所のT君について」の読み取り

保育者	保育記録「途中入所のT君について」へのコメント
A	②注目を浴びたいTなので、全体で遊んだ時（例えば鬼ごっこのようなものなら目立つ鬼をやらせ、おいかけて遊び）その中から友達関係をつくれれば良いのでは（b <sub>2</sub> ） ④保母と友達が遊んでいる時、Tもおいでと誘う。又、家の人にどんな遊びが好きか聞き、しばらくTの情緒が安定するまでTの好きな遊びを優先して遊ぶ（b <sub>2</sub> ） ⑥パンチすると、友達の顔が痛いということを言い、暴力はいけないことだとはっきり言った方がいいと思う（b <sub>2</sub> ） ⑩こうことは、もっと先の8月の入所当時にしての方がいいのでは（b <sub>2</sub> ） ⑭家では遊具など一人で全部使っているかもしれないが、ここは保育園なので、皆の遊具なので、一つしかないものは順番で使うように促せれば良いと思う。又、欲しいブロックの形がない場合、何かで補うことはできないか話し、聞いてみるのも良いのではないかと思う（b <sub>2</sub> ）
B	④友達と遊べないというより、保母と、又好きな遊びがTにあればいいのでは？8月は（b <sub>2</sub> ） ⑥頼むのはおかしいのでは（b <sub>1</sub> ） ⑦子どもが「先生の言うこと全部違っとる」ということは、対応の仕方にも少し？こんな形で表現なのかな（b <sub>1</sub> ） ⑪十分に受け入れた上で厳しく接した方が……8月では難しくないかな？保母との信頼関係も不十分なので（b <sub>1</sub> ） ⑭a保母とb保母と区別していることはよくないのでは（a <sub>1</sub> ） ⑯偏った愛でいいのかな？（b <sub>1</sub> ）
C	⑥母との1対1の関係が不十分なため、Y子をとられるのではというような不安もあるのだろう。その気持ちは受け止めてあげながら、パンチされたNの気持ちも話してあげる（a <sub>1</sub> b <sub>2</sub> ） ⑦保母に対して求めている部分大きい（a <sub>1</sub> ） ⑩その子のいい面を見つける努力をする。何もかもダメダメになると更に悪化していくと思うので（b <sub>2</sub> ） ⑪家庭と話し合っ、同じような対応をしていく。保育園ではいけないことが家庭では許されていないかなど（b <sub>2</sub> ） ⑮大切なことだが、一人担任ではなかなか難しい（b <sub>1</sub> ） ⑯わがままに対して、その時々状況にもよると思うが、全く受け入れない方が良いのか？（b <sub>2</sub> ）
D	⑪受け入れてあげることも必要ではないだろうか（b <sub>1</sub> ） ⑬⑭a保母には甘え、b保母の注意を聞き入れると、人を見る子に育つのでは？（b <sub>1</sub> ） ⑮1対1も大切だが、周りに目が向けられるよう、他の保母の接し方も必要ではないだろうか。又周りの友達の誘いかげなどはなかったのか（b <sub>1</sub> ） ⑰まだ無理なのではないか（b <sub>1</sub> ） ⑱信頼関係ができていけば、ある程度の遠慮はなくなると思うが、馴れ合うのではなく、躰けの面ではしっかりして、子どもが納得できるようにして、保母も受け入れていけばいいと思う（b <sub>2</sub> ） ⑳個を大切に保育は大切だが、集団を見つめる目も必要だと思う（b <sub>2</sub> ）
E	⑥生活の中で（例 食事を一緒に座る）一緒に過ごして、そこから遊びの方へつなげていくのはどうか？いきなり一緒に遊んででは？（b <sub>2</sub> ） ⑦対応の様子がはっきりわからないが、まずTの言い分を認めることからしたら、このような言葉は返ってこないか？（b <sub>1</sub> ） ⑨他の保母、家庭との話し合いの中で、その子にとって一番いいところを捜していく（b <sub>2</sub> ） ⑩生活の変化による不安が多いにあると思う。自分を受け入れて欲しいという気持ちがあるのでは？（a <sub>2</sub> ） ⑫一人遊びが多いことについては、まだあせる時期ではないように思うが（b <sub>2</sub> ） ⑬母といる時間が減った分、母に求めるものを保母に求めているのでは（a <sub>2</sub> ） ⑮⑯その時その時頭から否定するのではなく、話をしていく（b <sub>2</sub> ） ⑰やはり一番落ち着ける場は家庭だと思うし、遠慮を求めるとするのもおかしい。まずは子どもの思い、求めていることを理解し、受け止めてから、その中で集団生活の中で必要なきまりなどを知らせていく（b <sub>2</sub> ）



園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

表3-b 保育記録「途中入所のT君について」の読み取り

保育者	保育記録「途中入所のT君について」へのコメント
F	<p>⑦環境が変わったり、家庭での生活が不安定で、うまく思いが伝えられず、こういう態度に出たのでは (a<sub>2</sub>)</p> <p>⑪危険なことや、まわりに迷惑をかけるなどということがあれば、同じようにしたと思う (c)</p> <p>⑫3歳児だとこういうことが（一人あそび多い、些細なことでのけんか）よく見られるのでは？ プラス不安定さで強く出ているのでは (a<sub>1</sub>)</p> <p>⑮家庭へ（母へ）どうこの状態を伝え、考えていくか (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑯どこで我慢、甘えを判断するか？同じ保母がゆったりと関わっていく必要がある (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑳一人で担任をしている場合、最も悩むことではないか (b<sub>1</sub>)</p>
G	<p>④大人からの指示が多く、守られた環境に慣れている。頭が良すぎるから？ (a<sub>1</sub>)</p> <p>⑥大人とはピントのあった会話も、友達同士では成り立たず、行動に出る。気にいった子、自分を大事にしてくれる子を独占したい (a<sub>1</sub>)</p> <p>⑦今までは、自分の都合で周囲は動いてきたが、そうでもない状況となり、とまどっている。一つでもずれていたり違うことを許せない。自己中心的 (a<sub>1</sub>)</p> <p>⑧保母が子どもに合わせている (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑩親との共通理解がある (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑫頭が良すぎて自分から入っていけない（プライド） (a<sub>1</sub>)</p> <p>⑬母に代わる基地を求めている (a<sub>1</sub>)</p> <p>⑭b保母は注意もするが、気持ちをよくうけとめてくれている。信頼関係ができつつある。「この人の言うことなら聞いてみよう」 (a<sub>2</sub>)</p> <p>⑮保母間の役がよく話し合われている (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑰保母に遠慮はいらなと思うが（年齢にもよると思う） (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑱対象児の性格もあるが、もしこの場合一人担任だった場合、b保母の受入れの方が望ましいのでは？これはだめということは一貫してあった方がよい (b<sub>1</sub>)</p>
H	<p>④「遊べない」ということを保母がマイナスにとらえているように思われるが、この年齢、状況では、友達よりも保母との信頼関係、かかわりの方が必要なのでは？一人あそびでもおかしくない。もっと具体的に現状が記されているとわかりやすい (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑩子どもの立場から考えると、全てをまず受け入れて欲しいのではないかと？保母がTの行動をマイナスに感じ、決めつけてしまっているように感じる (a<sub>2</sub>b<sub>1</sub>)</p> <p>⑯わがままと思われる言動を認めないと、決めつけないで、その場に応じて対応に幅を持たせても良いのでは？ (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑰子どもを甘やかすということとわがまを認めないことは難しいと思う。時には、全てを受け入れることで、子どもにとって安らぐことがあるのではないかと (b<sub>2</sub>)</p> <p>自分ならば、子どもにとって居心地の良い場所になってから、少しずつ集団のルールに気付かせていくようにかかわるように努力する（現実には難しいですが） (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑱子どもが保母に対して全く遠慮がなくなるということが理解できない (b<sub>2</sub>)</p>
I	<p>⑥まずは、保育者とT君の信頼関係を持つことが大切なのでは？3歳で世話好きといえども3歳でしかない (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑩3歳児の場合、世話好きなYに頼むより、保育者との関係を持ち、安定できる園になれば、ひとりで友達から離れていく (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑪信頼関係不十分な状態では、きびしく接することは効果なし (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑮家庭との連携をすすめていることが分かり、良いことだと思う (b<sub>1</sub>)</p> <p>⑯保母の一貫した対応は、園全体の保母に必要なこと。担任一人だけが一貫した対応をしていてもいけない (b<sub>2</sub>)</p> <p>⑳1対1の対応は、Tが安定するまでは、このような場合は必要。しかし1対1で関わりながらも、Tがクラスの中から浮かないように、クラスの中の一人として入っていかないといけない。二人担任で、クラス全体を見るという視点は持っていないといけない (b<sub>1</sub> b<sub>2</sub>)</p>

注1. 各コメントの前の記号は、保育記録内の記号を示す。

(☆は、特定の文章を対象としないコメント)

2. 各コメントの後の括弧内の記号は、読み取りの分類記号である。

ることによって、保育者の援助の幅が広がるのである。

## 2. 記録「途中入所のT君について」の読み取り

各保育者の読み取りを整理したものが、表3である。

この記録の中で、最も多くコメントが書かれたのは⑩で7件であった。それらを種類別に整理し、読み取りを次のようにまとめてみる。

【保育者の記録】	【読み取りの種類】（記号は保育者番号を表す）		
⑩幼稚園での状態 家庭での状態を聞くと、保育所での姿と全く同じと言うことで、愛情不足だけが原因ではなく、性格的なものと判断し、少しきびしく接する時もあった。	□	D 受け入れてあげることも必要ではないだろうか	I. 保育者の援助に対する考察
	□	H 子どもの立場から考えると、全てをまず受け入れて欲しいのではないかと？ 保育者がTの行動をマイナスに感じ、決めつけてしまっているように感じる。	
	□	B 十分に受け入れた上で厳しく接した方が？ 8月では難しいのでは？ 保育者との信頼関係も不十分なのは。	イ) 保育者との信頼関係をつくることが先決
	□	I 信頼関係不十分な状態では、厳しく接すること効果なし。	
	□	C 家庭と話し合っ、同じような対応をしていく保育園ではいけないことが、家庭では許されていないかなど。	ウ) 家庭との共通理解が大切
	□	G 親との共通理解がある。	
	□	F 危険なことや、周りに迷惑をかける等ということがあれば、同じようにしたと思う。	II. 自分の保育の省察私と同じようにしたと思う

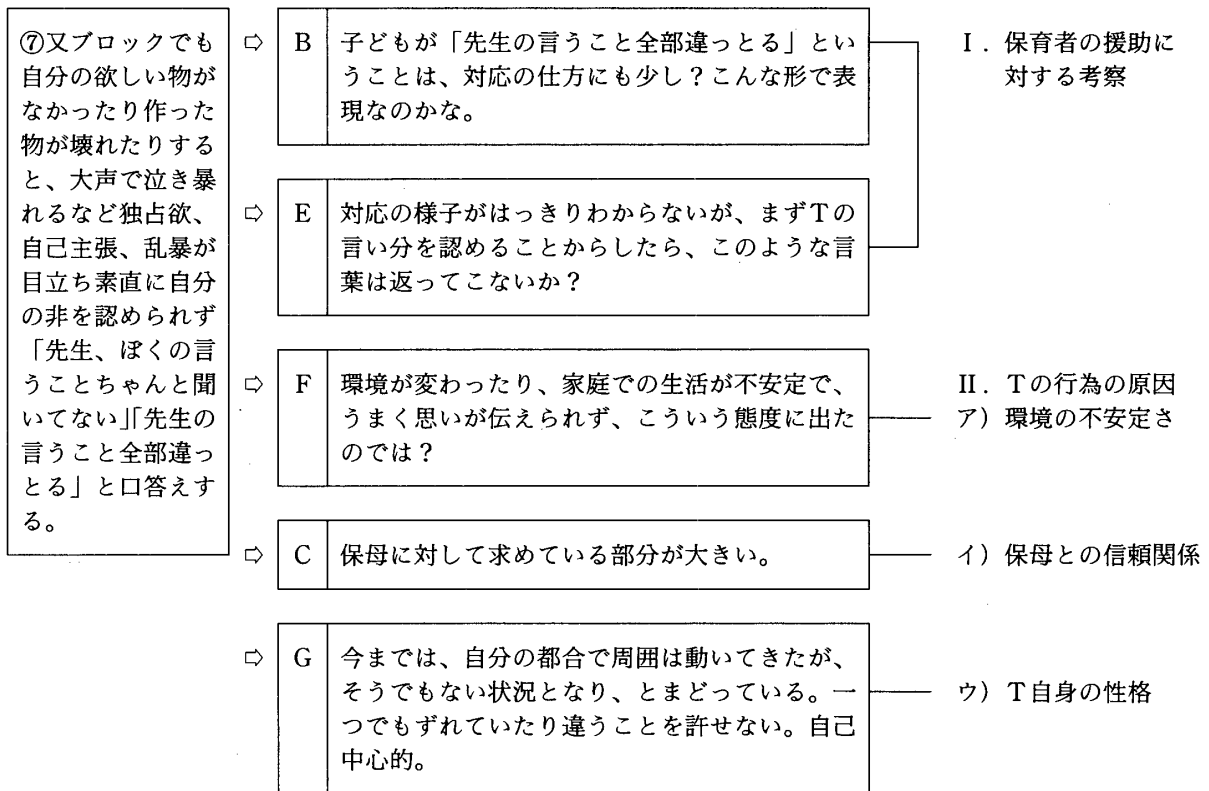
約半数の保育者（9名中4名）が、保育者がTを十分に受け入れ、信頼関係をつくることまがまず先決であることを指摘している。別の文章からも同様の読み取り（Cの「その子のいい面を見つける努力をする」、Eの「Tの言い分を認めることから始める」「自分を受け入れて欲しいという気持ちがあるのでは」）が表れていることから、Tと保育者の信頼関係づくりがまず大切という点で記録を読み取った保育者らの考え方の一致が見られた。

次に、コメント数が多く、意見がかなりはっきり分かれた⑦について考察する。

園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

【保育者の記録】

【読み取りの種類】（記号は保育者番号を表す）



自分の思いが通らない時に大声で泣き暴れる行為のTに対して、その原因をFは環境の不安定さ、GはTの性格上の問題としてとらえ、大きく異なっている。またCやEは、保母に自分の思いを分かってもらいたいというメッセージとよみとっている。保育者Gの「自己中心的」との解釈は、記録者のプロフィールの「周りの注目をあびていたいタイプ」を手掛かりにしているものと思われるが、「1つでもずれていたり違うことを許せない」というのは、保育者Gのそういう子どもに対する見解ではないかと思われる。

この記録によって保育記録者の課題を解決することができたか、また他者の読み取りによってどのように解決できたかについて考察する。記録者の課題は、タイトル「途中入所」からも伺われるように、途中入所のTが保育所に適応することである。すなわち友達とのトラブルが減ること(⑫⑰)、保母に対するわがままがなくなること(⑬⑱)である。その解決方法として、「A保母ができるだけ1対1で対応し、愛情不足を補うこと」(⑮)、「スキンシップで充分甘えさせること」(⑯)、その一方では「わがままを認めないよう一貫した対応をしていくこと」(⑲)を考えている。

保育記録の読み手は、この課題に関して、先程も述べたように、まず保母との信頼関係が先決であることを指摘している。記録者の「保母の対応」の記述を見ると、信頼関係を築き上げようと努力している状況にも関わらず、読み手はそう考えるのである。これは、記述のところ

ポーター 倫子

表4-a Sの思いの推察（保育記録「S君の友達関係を見つめて」）

保育者	4月11日(月)の記録	4月18日(月)の記録(④~⑥、⑩~⑫)	4月18日(月)の記録(⑦、⑬)
A	保育園には行きたくない。母さんと一緒に居たいよ。 今日はRやAと一緒に遊べるかな？仲間外れにはならないかな？不安だな。このままお母さんと一緒に帰りたいな。家で遊びたい。	一緒に遊んだから、片付けやろうよ。 僕が悪いわけじゃないのに、RもAもふざけるなんて悔しいな。いつもそうなんだから、嫌になっちゃう。	僕のルールを分かってよ。でも皆楽しそうだったな。よし僕もゲームやってこよう と。
B	離れたくない。 入りたいけど入れないし、先生おってよ。	先生来てくれないなー?!何かいって欲しいな。 でも分かってくれたのかな？	先生も入って遊んだらいいのでは。仲間の中に入って。
C	無理に連れて来られたということで、母に対しても怒りがある。暴れすぎたのが、少し恥ずかしい。	声を掛けることをきっかけに2人の中に入っていきたい。悔しい。自分の方が正しい(片付けする)のに、なぜいじめられるのだろう。でもやっぱり2人の仲間になりたい。やっぱりくやしい。でも一緒に遊びたいなあ。	Aの方が違うことを言っている。悔しいけれど、ゲームの楽しそうな輪の中に入りたくないなあ。
D	保育所で遊びたいが、母親と離れるのがつらく、不安になる。分かってはいるが、保育所に入りたくないし、涙が流れる。	RとAと一緒に遊びたい、話したい、関わりたいと思い、片付けを知らせたのに、片付けてくれず、受け入れてもらえなかった。 どうしたら、仲間に入れてもらえるのだろう。	ルールについてどう違っていたのだろうか？自分の思っていたルールと違い、やってみてもおもしろくない。
E	お母さんと一緒に居たい。園に連れていかれるー。 先生にだっこされるのも恥ずかしいしー。ひとりになりたい。泣いてもお母さんはこないし、部屋に行ってみよう。	せっかく「片付けやぞ」と言ったのにー。どうしてこんなことするの。かなしい・・・。 なんでまぜてくれないの。一緒に遊びたいなあー。	頭にきたけど、でもゲームしたいから遊びに行こう。怒っていても仕方がないもんなー。
F	久しぶりの登園で不安、母親と離れたくない。 パニック状態になり、何を言われても納得いかない。 信頼している担任が離れてしまい、だんだん寂しくなってきた、遊びにいいかな・・・と感じる。	なぜこんなことをされるのか、悔しい。 納得いかない思いが強く、次のことをする気持ちになれない。また仲間はずれにされてしまった。	自分の思っていたルールでやりたいと腹が立つが、それでもみんなでするゲームをしたい気持ちが強い。

園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

表4-b Sの思いの推察（保育記録「S君の友達関係を見つめて」）



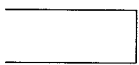
保育者	4月11日(月)の記録	4月18日(月)の記録(④~⑥、⑩~⑫)	4月18日(月)の記録(⑦、⑬)
G	泣けばなんとかなるだろう（お休みできるだろう）。 園に来て、過ぎなければならぬこと位はよく分かっているが、ストライキぐらい起こしてもいいだろう。 周囲の関心、「親、保母、友達」を全てひきつけたい。	どんな場面であれ、2対1になると立場が弱くなり、つらくなる。自分は正しいことを言っているのに「こんなのなら、言わなければ良かった。」 2人の前で泣いてしまった（プライドをくずされた）ことと、もう自分からは近づかないというプライドがある。 いつものことだと半分あきらめの気持ちもあり。仲間には入りたいが、自分からは絶対近づかないぞというプライドあり。	なんでみんな分かってくれないの！というSなりのつもりがある。そのつもりから、誰か外れたり、つもりどおりにならないと許せない（他の場面でもそう）
H	無理やり連れてこられていや。 5歳になって、先生に抱かれるなんて恥ずかしいーイヤだ放っておいて欲しい。	誰かが声をかけてくれるのでは？ 自分では遊びたくても、なかなかきっかけがつかめない。	R、Aだけに限らず、いろいろな友達存在に気づき、沢山の友達と遊ぶ楽しさを味わえて嬉しい。
I	一緒に遊ぶ友達がいるかどうか、不安。 R、Aが自分をまぜてくれるかどうか不安。もしまぜてくれなかったらという思いが募る。 家にいると、母親に甘えられ、何でも言うことを聞いてくれるし、安心。しかし園では人との関係で緊張する。	勇気を出して言ったのに、相手が2人で自分にかかってきたので、気が小さいため勇気がしぼんでしまった。 折角正しいことを言ったのに、自分の思いが通らなかったことを、悲しく悔しく思ったのだろう。	自分はルールを分かっているのに、他児はどうして分からないのか。ちっともゲームが楽しくない。

どこかに表れる保育記録者のTへの思い(願い)をよみとった結果、もっとTを受容していくこと、Tのよい面を見つけていくような関わりが、出来るのではないかと推察しているのである。その他、保母が1対1で対応していくこと、保母間で役割を分担することに対しては、読み手の側の意見も分かれており、これらはカンファレンスの中で共通課題として話し合いができる点かもしれない。

### 3. 記録「S君の友達関係を見つめて」の読み取り

保育記録の読み取りの一つの方法として、対象児Sの思いを推察してもらった。これらを保育者別にまとめたものが表4である。

表4の中から、①の「休み明けということで、登所を嫌がり、暴れながら母親に抱かれて登所」という状況に対して、それぞれの読み取り手がどのようにSの思いを推察したかについてまとめてみる。

ア) 母親と一緒にいたい (A、E) 母親と離れたくない (B、D、F) 友達と一緒に遊べるかな (A、I) 久しぶりの登園で不安 (F)		不安
イ) むりやり連れてこられていや (C、H)		怒り
ウ) 泣けばお休みできるだろう (G) 周囲の関心を引きつけたい (G)		目的達成の手段

このように、暴れながらやってきたSの気持ちを、殆どの保育者はア)の「不安」と読み取っており、その根拠を母親と離れること、友達関係の不安定さ、休み明けの登園と説明している。イ)の「怒り」は、暴れて入ってきたという状態から読み取ったように思われる。ウ)「目的達成の手段」と読み取ったのは、プロフィールの「末っ子という甘えも少し見られるよう」から推察したのだろうか。あるいは、保育者Gの子どもたちとの関わりを経験の中から、このような子どもの見方が生まれたのかもしれない。

### 4. 各保育者の読み取りの特徴

表2と3をもとに各保育者の読み取りの種類別に整理したものが、表5である。

表5より、保育経験年数が多くなる程、読み取りの数も増加する傾向にあることが分かる(M=11.4)。特に a<sub>1</sub>の「幼児の行動に対する解釈」(M=2.4)がやや増加傾向であり、一方 b<sub>2</sub>の「保育者の援助に対する提案」(M=2.3)がやや減少傾向である。これは、経験年数が少な

## 園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

表5 保育記録の読み取りの種類とその頻度（保育者記号の下の括弧は、保育経験年数を示す）

保育者	ともだち おらんげ						途中入所のT君について						合計						
	a <sub>1</sub>	a <sub>2</sub>	b <sub>1</sub>	b <sub>2</sub>	b <sub>3</sub>	c	a <sub>1</sub>	a <sub>2</sub>	b <sub>1</sub>	b <sub>2</sub>	b <sub>3</sub>	c	a <sub>1</sub>	a <sub>2</sub>	b <sub>1</sub>	b <sub>2</sub>	b <sub>3</sub>	c	計
A (1)				3					1	4					1	7			8
B (2)			2		1		1		4		1		1		6		2		9
C (3)		1	1	2			1	1	1	2	2		1	2	2	4	2		11
D (3)	1	1	1						3		3		1	1	4		3		9
E (4)	1			2			1	2	1	2	3		1	2	1	4	3		11
F (5)	5		1			1	1	1	2		1	1	6	1	3		1	2	13
G (7)	4	2		1	1		5	1	4		1		9	3	4	1	2		19
H (9)	1		1	2							1		1		1	3	5		10
I (25)	2		2	1	1				5	1	1		2		7	2	2		13
計	14	4	8	11	3	1	8	5	21	10	17	1	22	9	29	21	20	2	103

い程、どう問題を解決するかというテクニックが先立ってしまうのに対し、年数が経つにつれ、幼児の状態も含めていろいろな情報を総合的に判断し、手立てを講じることができるためではないか。たとえば、最も経験年数の低いAは、読み取りの殆どがb<sub>2</sub>であり、1つ1つの保育者の行動について関わりの手立てを具体的に示唆しているが、その根拠は、幼児の具体的行動やプロフィールを手掛かりにしたものとは読み取りにくい。つまり幼児の状態を正確にとらえることなしに、望ましい援助の在り方へと飛躍しているのである。

FやGは、幼児の行動の中にその子なりの育っていく姿を見出している。表2を見てみると、「⑤自分から興味を持ち、しようとしたのは、いろいろな面でふくらんでいるのだと感じた」「⑭自分が心から楽しいと感じると、友達に声を掛けたり、関わりを持とうとする気持ちが芽生えてきたのだろうか」「⑤自分自身の表現。すごい成長なのでは」と記されている。幼児の視座に立って、その子の今育とうとしている面を理解しようとする、読み取りなのではないだろうか。しかしGは「途中入所のT君について」と「S君の仲間関係を見つめて」の読み取りの中では、先にも述べたように、「こういう子どもはこういう傾向がある」という子ども観が強く

表れている面もある。

Iは経験年数が最も多いためか、読み取りも課題解決に向けてのコメント(表2の「保育者とDではなく、Dと友達との関わりが持てるように、保育者が友達に関わることはできないか?」や表3の「1対1で関わりながらも、Tがクラスの中から浮かないように、クラスの中の一人として入っていかないといけない」)が比較的多い。また家庭との連携を進めること、園全体の保母に一貫した対応が必要なこと、二人担任でクラス全体を見るという視点を持つこと等、問題をマクロ的に検討していこうとする傾向がある。

表5より、記録「ともだち おらんげ」と「途中入所のT君について」の読み取り数を比較すると、前者はa<sub>1</sub>の「幼児の行動に対する解釈」が14件と最も多いのに対し、後者はb<sub>1</sub>の「保育者の援助に対する考察」が21件、b<sub>3</sub>の「保育者の考えに対する考察」が17件と最も多くなっている。これは、前者の記録が対象児の行動について具体的に書かれているのに対し、後者の記録は、対象児の行動の記述が抽象的であることと、保育者の主観がかなり強く含まれているためではないかと考えられる。そうすると、記録の性質によって、カンファレンスの焦点も絞られてくるように思われる。

## V. ま と め

関口氏は保育者の研修について、「知識や技術を習得したり、心構えを習ったりする受動的な内容ではなく、保育者自身が自分の力で成長し続けることができるための方向を作る、能動的なものであるべき」と捉えている<sup>(17)</sup>。園内研修は、保育者一人ひとりが自分の姿に向き合いながら自己改革していくプロセスである。限られた時間をやりくりしながら参加している保育者のために、単なる意見交換で終わらず、実践の向上につながっていくような質の高いカンファレンスの在り方を探りたいという思いで、この研究に取り組んだ。

今回の研究は、保育記録の読み取りを通し、読み取り手である保育者の保育観を探ることを目的とした。読み取りの対象となった保育記録は少なかったものの、それぞれの記述に対する読み取りの中に、保育者の子ども観や保育観の違いが見られた。今後はカンファレンスで、各保育者がどのように見方の修正を行い、保育観が変化していったのかについて明らかにすることを課題としたい。

## 参 考 文 献

- (1) 平岩定法「幼児理解のためのミクロ的実践分析の方法 (No. 3) -ミクロ分析における集団討議過程-」中京女子大学紀要 第19号 p.183-190 1985年
- (2) 同上
- (3) 金澤妙子「現場との付き合いの中で保育カンファレンスの成立要因を探る-園(施設)で取り組む具体的な共通の課題を持つことが保育カンファレンスを活性化させることについて」第45回日本保育学会論文集 p.646-647 1992年
- (4) 平岩定法「保育実践の分析方法-保育記録の集団討議過程の分析 (No. 4) -」中京女子大学紀要 第



## 園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

20号 p.43-52 1988年

- (5) 佐藤文子「保育実践の深まりと保育者の成長—園内研修と保育者の変容」発達 N.58 V.15 p.33-39 1994年
- (6) 加藤純子他「園内研究はいかに行われるべきか—保育者による保育研究のあり方を探る—」東京学芸大学紀要 1部門 43 p.9-16 1992年
- (7) 小川博久編『保育実践に学ぶ』1988年 建帛社 p.256
- (8) 河邊貴子「保育に生きる記録の在り方」保育研究 N.13 V.3 p.26-35 1992年
- (9) 記録の「媒介性」という解釈は、戸田雅美「記録の媒介性とその機能—記録の本質についての考察を通して」第45回日本保育学会論文集 p.564-565 1992年を参考にしたものである。
- (10) 小川博久編『保育実践に学ぶ』1988年 建帛社 p.277-278
- (11) 南 博文「保育の場における事例研究—子どもたちが生きている世界の「厚い記述」にむけて—」発達 N.58 V.15 p.12-18 1994年
- (12) グループ「独立」「保育者による子どものよみとり—保育者記録の分析を通して—」第47回日本保育学会論文集 p.696-697 1994年
- (13) 平岩定法「幼児理解のためのミクロ的实践分析の方法 (No.3) (以下略)」前掲
- (14) 河邊貴子「幼児理解と保育記録のあり方—子どもの遊び課題をどう読み取るか」第43回日本保育学会論文集 p.520-521 1990年  
河邊貴子「幼児理解と保育記録のあり方 その(2)—保育者のとる記録の意味」第45回日本保育学会論文集 p.566-567 1992年
- (15) 今井和子『保育に生かす記録の書き方』1993年 ひとなる書房
- (16) 関口準他「保育実践を迫及する・座談会① (1986. 8) —保育実践の問題点と課題は何か—」岸井勇雄編『実践記録による保育実践の研究』1994年 チャイルド本社
- (17) 関口はつ江「研修者に合わせた園独自のプログラムを」現代保育 V.39 6月号 p.10-12 1991年

資料 1

「ともだち おらんげ」(5歳児)

平成6年5月6日(金)

【Dのプロフィール】

- a) 父、母、祖母、姉(小二)、弟(未熟児)の6人家族。父は会社員、母は公務員(保健婦)。祖母の入院で1才半で入園。甘えん坊で人なつこい。言語面ではしっかりしており、自分の興味あるものには、本などで知識も豊かである。しかし、そうでないものに対してはマイペース。道草しつつ、やるだけやり、気が済むまですると、戻る。決してまわりに惑わされない方である。
- b) 母親は弟の育児、家事の負担が大きく、家ではゆっくり相手できない文、祖父がカバーしている様子だが、父親と同様、長男という期待も大きい。園に送迎している祖父は、Dを世話している間中、「ちゃんとしなさい」の言葉が多く、時には暴力的行為をとることもある。Dはそのわりに平静である。

【経過】

- c) 自分を受け入れてもらえる保母には、自分の思いや遊び等でも得意になって話をするがクラスの子らは、4月もっぱら戸外での遊びが多く、つくったりかいたり本をみたりといった遊びの多い本児には、ゆっくりとかかわる機会が少なかった。
- d) 最近、母親の連絡帳に、これまで「ともだちなんかいらん」と言っていたDが、「ともだちおらんげ」と友達欲しがっているようだと書いてきたが、実際には自分から積極的に関わりを持つ様子はなく、友達からも関わりを持つことは殆どない。しかし女兒Hが、自分のいいなりにしようとDに「赤ちゃんにならんか」とかかわりをもつこともあるが、持続はしない。

園内研修と保育者の変容に関する一考察（試案）

状 況	保母の思いと援助
<p>①登園するとすぐに、友達をつくった自動販売機に気付き、ボタンを押したり、手を入れたり、裏の方からのぞいたりし関心を示す。</p> <p>②保母に誘われ、だんごづくり入ってきたが、一本作るとすぐにその場から離れていく。好きな絵本を取り出し、見始めるが、すぐ飽きてしまい、寝そべっている。</p> <p>（紙芝居づくり）</p> <p>③数枚の厚紙をみて「ここんところ、123と番号ついているよ」 すぐに絵をかき始める。 絵をかくことに夢中になり、Dの世界に入り込む。周りの友達との関わりは見られないが、保母には内容のことで、時々話し掛けてくる。</p> <p>④翌日も登園するとすぐに紙芝居づくりを始めるが、しばらくすると飽きてしまう。友達のしている家づくりに関心を示す。</p> <p>（家づくり）</p> <p>⑤大きい段ボールで作った家の中に入る。椅子に立ち、家から部屋全体をのぞくことを楽しむ。そのうちに自動販売機で遊んでいる友達に気付く興味を持つ。 「ほくも買ってくるね」と遊びの中に入っていった。</p>	<p>⑥前日Dが欠席の為、自動販売機に関心を持ってきてくれたので、チョコレート、だんごづくりなど足りないものを作ろうと誘ってみた。</p> <p>⑦あそびが見つからない様子のDを見て、本児の好きな恐竜の話を持ち出し、紙芝居づくりに誘ってみた。</p> <p>⑧紙の指示されたところに番号を書いてやる。</p> <p>⑨ミニテーブルを出し、落ちついて描けるように場所の確保をしてやる。</p> <p>⑩一つ一つの説明を十分に聞いてやり、認めたり、質問したりする。又作品の片付け場所を確保する。</p> <p>⑪関心を示したDの様子を見守る。</p> <p>⑫うまく興味を引き出せば、友達との遊びの中に誘うことができ、かかわりをもつ機会が増えるのではないかと気付く。</p>
<p>考察</p>	<p>⑬本児の好きな製作あそびだったので、保母は誘ってみたが、自分から始めた遊びではないため、関心を示さなかったのだろう。</p> <p>⑭友達に声をかけ、あそびを楽しむ様子も見られ、本児なりに、友達とかかわりを持てるようになってきたようだ。</p> <p>⑮しかし5歳児としては、まだ幼いと思われる。</p> <p>⑯今後、Dの興味のある活動をきっかけにしながら、友達の中に入り、関わりがもてるように働き掛けていきたい。</p>

資料 2

「途中入所のT君について」(3歳児)

<p><b>【T君のプロフィール】(H2年2月生まれ)</b>                  ①父、母、祖母、弟(1才半)の5人家族。父母は教師、祖母は元保母の家族に育ち月齢は低い、知能能力に優れ、流暢とピントの合った会話ができる(あーいえば、こう言う)                  ②性格は父親ゆずりで、自己顕示欲が強く、おちゃらけで、周りの注目をあびていたいタイプの子である。まだ子どもらしく人なつっこい為、かまってあげたくなるタイプでもある。                  甘えん坊で生活面での介助がまだ多く必要である。                  母曰く「一人で何もできなくせに言う事だけ一人前」                  ③4月より幼稚園に通っていたが、弟が長期入院することになり、8月より途中入所してきた。入院により、母親は夜間、弟の病院に寝泊まりとなり、家庭に於いても今までと一変した生活になってしまった。</p>	
<p><b>【8月入所当時の状態】</b>                  ④新しい環境に慣れず、友達とは遊べない。                  ⑤絵をかくことが好きで、ドラゴンボールの絵ばかりかいていた。                  ⑥世話好きのY子に遊んであげてくれるように頼み、二人でままごとをしていたが、そこにN子が入ってくると、急に顔パンチしてしまう。理由は「じゃまだった」                  ⑦又ブロックでも、自分の欲しい物がなかったり作った物が壊れたりすると、大声で泣き暴れるなど、独占欲、自己主張、乱暴が目立ち、素直に自分の非を認められず、「先生、ぼくの言うことちゃんと聞いてない」「先生の言うこと全部違つとる」と口答えをする。</p>	<p><b>【保母の対応】</b>                  ⑧大好きなドラゴンボールの話題などで気持ちを開き、少しずつ信頼関係が作れるようにする。                  ⑨周りの友達にも働き掛け、少しでもかかわるようにする。                  ⑩新しい環境への不安、保母との信頼関係も不十分な状態でもあり、日々悩みながらの対応だった。                  ⑪幼稚園での状態、家庭での状態を聞くと、保育所での姿と全く同じと言うことで、愛情不足だけが原因ではなく、性格的なものと判断し、少しきびしく接する時もあった。</p>
<p><b>【10月の状態】</b>                  ⑫自分のしたい遊びを見つけ、遊ぶようになってきたが、一人あそびが殆どで、友達との関わりと言うと、些細なことでのたたきあいのけんかが多い。                  ⑬又、A保母への独占欲が強くなり、母に対する甘えに似たわがままで、だだっこになってしまっている。                  ⑭B保母の注意促しには、ある程度素直に聞き入れるようになってきた。</p>	<p>⑮母親もギリギリの生活で悩みながら一生懸命接しているのが伝わってくる。そこでA保母ができるだけ1対1で対応し愛情不足を補うように努めた。                  ⑯午睡の添寝など、スキンシップで充分甘えさせ、受け入れるが、我儘と思われる言動が認めないようにする。</p>
<p><b>【今後の課題】</b>                  ⑰友達とのかかわりの中で、少しでも我慢したり、譲ったりできるようになって欲しい。                  ⑱保母との信頼関係の中で、甘えは受け入れるが、我儘は認めないよう、保母が一貫した対応をしていきたい。                  ⑲保育の原点は、家庭養育の補完であるが、集団の中のルールやきまりもあり、子どもが保母に対し、全く遠慮がなくなってしまうケースもあると思うがどうだろうか。                  ⑳今回のケースは、複数担任で、一人が1対1の対応をしながら、もう一人が他の子への対応もできたがむずかしい場合が多いと思う。</p>	

資料 3

「S君の仲間関係を見つめて」（5歳児）

【Sのプロフィール】

3人兄弟の末っ子で、両親と5人家族である。両親共働きのため、1歳児より保育所に入所しており、長時間保育で3歳児クラスになる時に、当保育所に転入してきた。家では2つ違いの兄によく泣かされている。末っ子ということで、母親も甘い面が見られる。保育所での様子は、遊びは発想もおもしろい面を持っている。活発なR夫とA夫は、未満児からの仲良しで、3歳児で入所してきたSは二人の中に入っていきたいが、なかなか入れないこともしばしば見られ、4歳児頃より、家へ帰ってのつながりが少しずつついたことにより、少しずつ入れてもらえるようになったが、二人の絆は深く、2対1になることがあり、はみ出してしまうこともある。それでも2人と遊びたいようで、遊びに入れてもらえると嬉しそうである。ケンカになると、カッとなるタイプで、パニック状態になることがよくある。年長児になり4月は不安定な面も見られた。

休み明けは、情緒的に不安定になることが多い。末っ子という甘えも少し見られるようだ。4月という不安定な時期でのSのパニック状態であるが、少しずつ生活、遊びも安定してくると、自分で少しずつコントロールできるようになってきた。特に遊びの楽しさを味わうことにより、遊びに目が向くようになり、パニック状態も少なくなってきたようだ。

また3年目の三角関係ということであるが、以前よりは3人うまく遊べるようになってきたようだが、Sにとっては大きな壁になっている。いろいろな経験、遊びを通して、いろいろなクラスの友達にも目が向けられるようになって欲しいと願い、一人ひとりが目立つような活動を取り入れていきたい。

自分の気持ち少しずつコントロールできるようになってきたSの成長は、十分に認めて、これからも見守っていきたい。

ポーター 倫子

状 況	保母の思いと援助	Sの思い (推察)
<p>【4月11日 (月)】</p> <p>①休み明けということで、登所を嫌がり、暴れながら母親に抱かれて登所。</p> <p>②担任が母親にかわり、抱きかかえるが、暴れてどうにもならない。</p> <p>③45分位すると、顔は下向き加減で部屋にやってきて、大好きなレゴブロックで遊び出す。</p>	<p>⑧休み明けということで3歳児の時から見られた登所拒否をする姿が見られた。新しい環境ということで不安もあるのだろうと、Sとの信頼関係を作ることにつとめる。</p> <p>キューと抱き締め、「Sちゃん、よく保育所に来たね」などと声をかけたりするが、声をかけるとよけい泣くので、しばらく職員室で様子を見てもらい、「自分で部屋に来たくなったらおいで」とSをおいて保育室へ行く。</p> <p>⑨部屋に一人で来れたことを認め、あとはSの遊びを見守る。少しずつ「先生」と話をしに来てくれるので、今日はもう大丈夫という気持ちが伝わってくるようであったのでホットする。</p>	
<p>【4月18日 (月)】</p> <p>④ホールで縄で遊んでいて、片付けになる。R夫、A夫が片付けをしないので、Sが「片付けやぞ」と声をかけると、二人がSにふざけてきた。二人にかなわないと思い、泣き出してしまふ。</p> <p>⑤Sは、みんなが戸外に出た後も、一人部屋で自分の気持ちをおさめていたようだ。30分位かかる。</p> <p>⑥その後の、戸外の遊びでは、A夫、R夫の仲間に入れてもらえず、Sはスネてしまふ。</p>	<p>⑩Sを抱き、Sの気持ちを認めるようにする。しかしなかなか立ち直れそうにもないので、しばらく様子を見守る。R夫、A夫にはSの気持ちを伝える。二人は保母がSを抱いたことで、何か悪いことをしたと察したようだ。</p> <p>⑪今までの遊びの中にも、三角関係をどうしたらよいかといつも心の中にある。</p> <p>⑫自分で立ち直ったSを認め、言葉を交わさないと笑顔を返すと、少し照れ臭そうにする。後は見守る。</p>	
<p>⑦クラスの友達、5、6人とフープを使つてのジャンケンゲームを楽しんでいた。ルールがお互いに理解できなかったことでSはカッとなり、泣いて部屋に戻ってくる、がしばらくたつと自分を抑えることができ、また何もなかったように遊びに戻る。</p>	<p>⑬チューリップ作りなどで他児と一緒に過ごしていたが、いつもと違った楽しそうなゲーム遊びを見守る。A夫とのルールの違いに腹を立てたようだ。部屋に入ってきたので、どうしようか、声をかけようか等と迷うが、しばらく様子を見る。ホールからは楽しそうな声を聞こえてくる。あつという間にSは立ち直り、ゲームに戻る。先程のようにゲームを楽しむSの姿にほっとし、いつもより短い時間での立ち直りだったので驚く。</p>	